



名古屋経済大学  
経済学部准教授

榎平 龍宏氏

オープン  
カレッジ

ここにいくら売り上げたのか、重視のあり方から、モノやサービスとの消費のあり方や体験を競うものであった。しかし、人口減少社会下において、成熟してはいるが縮小一辺倒の消費需要に過剰期待をかける新しい特産品づくりを重視する地域活性化戦略が、激変する市場環境と限りある地域資源の求めるところを最も重

## 脱工業化時代の地域発展戦略

一昔前の地域活性化といえ、判で押ししたように地域資源を活用した特産品づくりによる地域ブランド製品を、ど源の限界によって翻弄され疲弊する事例は枚挙に暇がない。また、もともと特産品づくりや地域ブランド製品開発を否定するつもりはないが、これからの地域づくりは、特産品開発にかたよった「モノづくり」

## 生活と産業 結合に可能性

「移行する段階の地域社会再生とは、自然に働きかける人間そのものを向上させること、すなわち教育、医療、福祉といった「人への投資」を公共サービスとして提供することが前提である。それは、構成員主体の相互扶助機能によって成り立ってきた農山村地域社会が、工業化社会下において単純化され失われつつあるそれらの機能のさらなる衰退を押しとどめ、多様な主体間の連関性を回復し、高度化するこなしには、地域として新しい社会を展望し得ないことを意味している。人の投資による「仕事と暮らしの再建」によって高度化される様々な主体間のネットワークは、「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」と呼ばれる。そしてソーシャル・キャピタルは、農山村地域における「産業の地域化」として、個々バラバラであった産業分野を地域内で再結合する取り組み（「農工商連携」）や、「暮らしの産業化」として非営利セクターが取り組んでいる「コミュニティ・ビジネス」などによって、次第に醸成されつつあるとい

「暮らしの産業化」と「暮らしの再建」によって高度化される様々な主体間のネットワークは、「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」と呼ばれる。そしてソーシャル・キャピタルは、農山村地域における「産業の地域化」として、個々バラバラであった産業分野を地域内で再結合する取り組み（「農工商連携」）や、「暮らしの産業化」として非営利セクターが取り組んでいる「コミュニティ・ビジネス」などによって、次第に醸成されつつあるとい

人の投資による「仕事と暮らしの再建」によって高度化される様々な主体間のネットワークは、「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」と呼ばれる。そしてソーシャル・キャピタルは、農山村地域における「産業の地域化」として、個々バラバラであった産業分野を地域内で再結合する取り組み（「農工商連携」）や、「暮らしの産業化」として非営利セクターが取り組んでいる「コミュニティ・ビジネス」などによって、次第に醸成されつつあるとい

人の投資による「仕事と暮らしの再建」によって高度化される様々な主体間のネットワークは、「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」と呼ばれる。そしてソーシャル・キャピタルは、農山村地域における「産業の地域化」として、個々バラバラであった産業分野を地域内で再結合する取り組み（「農工商連携」）や、「暮らしの産業化」として非営利セクターが取り組んでいる「コミュニティ・ビジネス」などによって、次第に醸成されつつあるとい

